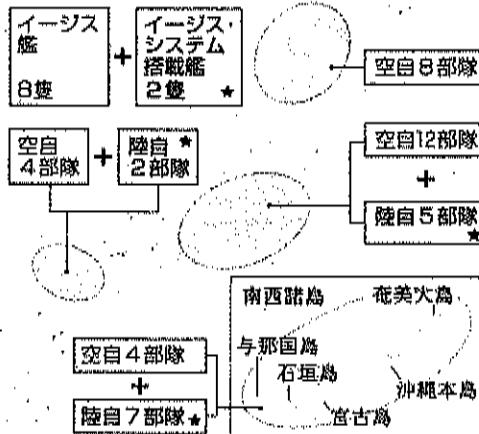


南西諸島の迎撃網強化へ

31年度末計画 ミサイル防衛、中国念頭

2031年度末までに配備する
弾道ミサイル防衛システム



日本を狙う弾道ミサイル
を迎撃する「説明ミサイル」
防衛(BMD)システム搭載艦
に因る、政府が「〇三年度末までに自ら指す増強計画」
の概要が判明した。地上の
迎撃網を強化するため、新たに海上自衛隊の十四の地
域の大部隊、鹿児島県・奄美大島の一部隊に配備する。
既存の沖縄本島にある航空自衛隊の四部隊と合わせ、三倍近い計十一部隊の
航警飛行隊が年内に配備される。

MDだけでもミサイルを防げ
ないとして反撃能力(敵基地攻撃能力)を検討してお
り、計画との関係を問われ
そうだ。

計画概要では、航空機対
処を主目的とする陸自の
「03式中距離地対空誘導
弾」(中SAM)を説明。ミ
サイル迎撃が可能な仕様に
変更された「レーダーも首都
圏や九州に導入する方針
だ。

洋上では、防空能力の高
い「イージス・システム搭
載艦」二隻を「八年度まで

日本を狙う弾道ミサイル
を迎撃する「説明ミサイル」
防衛(BMD)システム搭載艦
に因る、政府が「〇三年度末までに自ら指す増強計画」
の概要が判明した。地上の
迎撃網を強化するため、新たに海上自衛隊の十四の地
域の大部隊、鹿児島県・奄美大島の一部隊に配備する。
既存の沖縄本島にある航空自衛隊の四部隊と合わせ、三倍近い計十一部隊の
航警飛行隊が年内に配備される。

MDだけでもミサイルを防げ
ないとして反撃能力(敵基地攻撃能力)を検討してお
り、計画との関係を問われ
そうだ。

計画概要では、航空機対
処を主目的とする陸自の
「03式中距離地対空誘導
弾」(中SAM)を説明。ミ
サイル迎撃が可能な仕様に
変更された「レーダーも首都
圏や九州に導入する方針
だ。

洋上では、防空能力の高
い「イージス・システム搭
載艦」二隻を「八年度まで

中SAMは中国やロシア、北朝鮮が開発を進める
極超音速飛翔兵器に対応す
るための改修も実施し、二
年年度からの部隊配備を固
めた。超音速飛翔兵器に対応す
るための改修も実施し、二
年年度までの配備開始、三
年年度までの配備終了、四年
度からの部隊配備を固
めた。

中SAMは中国やロシア、北朝鮮が開発を進める
極超音速飛翔兵器に対応す
るための改修も実施し、二
年年度までの配備開始、三
年年度までの配備終了、四年
度からの部隊配備を固
めた。

「敵基地攻撃が低コスト」の声も

迎撃システム更新が課題

政府のBMDシステム整
備計画の概要が判明した。

地上の迎撃部隊は全国で一
五倍に増えたが、海上は
超音速兵器への対応能力が
強化された「レーダーも首都
圏や九州に導入する方針
だ。

洋上では、防空能力の高
い「イージス・システム搭
載艦」二隻を「八年度まで

六千*超の「日アリット」軌
道での発射もあり、迎撃
は「難題」ではない。
政府は一時、地上配備型
迎撃システム「イージス・
アシヨア」の導入を決めた
が、技術問題で「〇年に断
念。イージス・システム搭
載艦の建造に取り組んだ経
緯もある。

イージス・システム搭載
艦は、中国の海
洋進出による海上自衛隊の
計画問題では、

弾道ミサイル防衛(BMD) 日本に飛来す
る弾道ミサイルを迎撃する防空システム。北朝
鮮に対するため2003年に導入を決定した。大気
圏外を飛行中に海上自衛隊のイージス艦に搭載された
ミサイル迎撃(ASM3)で狙い、撃ち落とした場合、
航空自衛隊の地対空誘導弾パトリオット(PAC3)
が地上で迎え撃つ。段階的。発射機器の共用や迎撃ミ
サイル開発で米国と連携する。空母軌道など技術力の
向上を進める中国や北朝鮮のミサイルへの対処力を見
てある。

整備計画は防衛力強化に
向けた自民、公明両党の実
務者会合で示され、両党は
二日、反撃能力の保有と命
められた。BMのみぞが

に就役させ、既存の海上自
衛隊イージス艦八隻で南西
諸島、沖縄などに配置。沖
縄では本島三カ所と、宮
古、石垣、与那国の三島江
配備する。

「ミサイル」を装備する。

6に加え、より早い段階
で迎撃するため米国が開発

までの間隔を

まで、南西諸島を中心とした

上陸部隊の十四部隊をBM

Dに編入。既存の航空自衛

隊二十八部隊が「計四十二」

部隊に増える。だが、地対

ミサイルの射程は数十キ

メートル程度で、「全国はバー

でない」(國防省幹部)のが

実情だ。

BMにより、発射拠点を

攻撃する長射程ミサイルの

方がコストが低いとの試算

がある。自民党国防族の一

人は「反撃能力を保有して

いるBMの強化は続ける

べきだ」と指摘する。